



発行所
人間らしく働くための九州セミナー
北九州現地実行委員会

九州セミナーin北九州は令和3年10月9日~10日開催 オンラインにて開催 詳しくはHPをチェック

九州セミナー
第5弾
事前学習会

過酷な環境下で働く
外国人の実態あらわに

第5回となる九州セミナー学習企画では「コロナ禍の外国人労働者の実態と健康」を学ぶために、ユニオン北九州の本村真執行委員長から日本で就労している外国人の状況や起こっている問題について、また、健和会の西中徳治理事長に「救急受診における外国人の受診」についてご報告いただきました。

追い詰められ
失踪、自殺

コロナ禍で帰国できない外国人技能実習生が、ネットを介して「仕事を紹介する」と15万円を請求されるという詐欺行為に巻き込まれるケースが起きています。

2017年から2020年の間に妊娠・出産を理由に実習が困難になった実習生は640人をかぞえ、最近の例では妊娠した実習生が自殺を選んでしまう事件も発生していました。言葉の壁が実習生への暴力につながっています。実習生の日本語習得について、本来労働時間の中で学習するべきところが長時間労働でその時間の確保が難しいこと、日本人雇用者側の言語学習に対する理解や歩み寄りが不足していることが「口より先に手を出す」という雇用者の態度につながっていると本村委員長は指摘します。



健和会の西中徳治理事長

訳は中国をはじめアジアの国籍が多数を占めていることや、コミュニケーションや医療に対する考え方の違いが下でのトラブル、食事への宗教上の配慮、搬送の手続きの困難といった問題が報告されました。最後に無料低額診療を実施した外国人の症例として、切迫早産での入院、交通事故で救急搬入された症例が紹介され、健和会は無料低額診療に外国人も対象としていることや無料低額診療を利用している外国人の多くがアルバイトで生計を立てている学生で医療費に充てる経済的余裕がないこと、生活保護基準なみの生活をしていることが報告されました。

すべての人が
人間らしく働くために

今回の学習会で自分たちの知らないところで外国人労働者が劣悪な環境での労働を強いられ健康問題で困っている実態があらわになりました。より多くの人に外国人労働者の健康実態に関心を持ってもらい、国籍など関係なくすべての人が「人間らしく働く」ために、同じ人間としてこの問題に取り組み、運動を進めていく必要を実感する学習会となりました。

【現地実行委員】



ユニオン北九州の本村真執行委員長

また、妊娠した実習生が死産した赤ちゃんを死体遺棄して逮捕されるという事例も複数報告されています。

もはや技能実習生
制度は崩壊している

こういった事例から仕事を選ぶこともできず、研修費や渡航費の負担、強制帰国や違約金の発生といったリ

医療への考え方の
違いによるトラブルも

続いて健和会の西中理事長から全国的な症例から見える外国人受診者の傾向と大手町病院が受け入れた症例が報告されました。東京、大阪などの病院の報告から外国人の国籍の内

大手町病院での症例では、アジア圏の20歳~30歳代の外国人が多くベトナム人が最も多いことや労災隠しと思われる症例が何件かあることが報告され、コミュニケーションツールとして無料の翻訳アプリのボイストラック (Voice Tra)・ポケットトーク (POCKETALK) を使用

参加者からの質問

お二人からの興味深い報告に参加者からも多くの質問がだされました。「外国人の労働環境改善のために事業主としてできることはあるか」「管理団体の許認可基準は」との質問に本村委員長は、「簡単なことではないが相手の国の事情や文化、正確に配慮した対応が必要。日本人の側も必要な言葉を憶えたりして他国の人と働くということに対する努力をしてほしい」「管理団体全体に目を届かせるのは難しく、中にはお金儲けの手段としか考えないブラック団体もある」と訴えました。

西中理事長への「労災隠しはどこからわかったのか」という質問に「九州セミナー事務局が調査を行い報告されたものをいくつか例にあげた」と説明し、労災隠しは断定ではなくあくまで疑いの患者さんで、外国人労働者に限ったことではないが、トラブルを避けて労災申請をしないのではないかと推測されました。